

年間第三主日

2018.1.21

マルコ 1・14-20

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」。今日のミサの中に響いた主のみことばです。謎めいたこのみことばはどのようなことを意味しているのでしょうか。時は満ちたとは、今日の福音の初めに語られていた洗礼者ヨハネに至るまでのときが満ちたということです。今聴いた今日の福音の冒頭には、洗礼者ヨハネが捕らえられたことが語られていました。こうして、洗礼者ヨハネにまで至る旧約の時代が終わり、旧約の最後の預言者である洗礼者ヨハネが告げていたメシア・キリストの時代が開始されるのです。旧約の預言者たちが告げていた約束の時代が満ちて、神の国が到来しようとしているのです。これが、イエス・キリストによってもたらされた福音です。この福音を信じて受け入れるためには悔い改めが必要です。けれども、福音を信じるためにはその前に悔い改めなければならないとされているわけではありません。イエス・キリストが告げる福音を信じて受け入れることが、このような世界に生きているわたしたちにとっての悔い改めということです。わたしたちが生きるこの世界の真の主人公は、この世界の創造主である神です。わたしたち人間が生み出す罪によって汚された創造主である神の支配が回復される時、神の国はこの世界に到来するのです。神のひとり子、わたしたちの主イエス・キリストはそのいのちをささげて、父なる神のお望みに従い通されて、父なる神の主権を回復されたのです。こうして、わたしたち人間の罪によって乱されたこの世界の秩序は回復され、神の国がこの世界に再び到来しようとしているのです。このことを信じ、受け入れて生きることが福音を信じるということです。

今日の福音の後半の部分には、イエスに呼ばれて、すべてを捨ておいてイエスに従うことになった最初の弟子たちの召命の出来事が語られていました。創世記の楽園の物語を思い起こさせるような語り方で、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたイエスは最初の弟子たちの名を呼ばれます。創造の日の夕暮れの風が吹くころ、創造主である神はアダムの名を呼ばれます。心にやましいところを抱えたアダムはこうして神の裁きの前に立たされたのでした。イエスに声をかけられた最初の弟子たちも、イエスの絶対的な呼びかけに応えざるをえませんでした。しかし、弟子たちにとってこのイエスの呼びかけは恵みの呼びか

けそのものだったのです。最初のイエスの弟子たちの礎とされたペトロから始まった教会の中で、わたしたちはイエスに名前を呼ばれ、イエスに従う恵みの道を歩み始めました。この信仰の道をイエスに従って歩み通す恵みを願って祈りましょう。